

みんなが暮らしやすい社会に

宮古小学校 六年

ガルシア

江^え怜^れ奈^な

私のいとこは、私と四才違いの小学二年生の女の子で、宮古市内の小学校に通っています。私から見ると、わりとおとなしい性格です。いいところは、よく気が利き几帳面なところです。ただ、うまくいかないことがあるとずっと気にしてしまいます。生まれたときに未熟児で、足が少し不自由でした。二才、三才になっても、うまく歩くことができませんでした。私は一緒に遊ぶとき、気をつけたことがあります。外には行かないことと、階段を使わないことでした。でも、それ以外はまったく普通で、楽しく遊びました。

いとこは普通の子より遅かったですが歩けるようになり、二〇一一年の春、小学校一年生になりました。楽しそうに学校生活を送っていました。歩けるようになったといってもまだ少し不自由があったので、登下校は送り迎えが必要で、いとこ自身もつらいこともあったと思います。うまく歩けないことで、他の友達よりも疲れやすかったり、友達から意地悪をされたりしたこともあったようです。そんな話を打ち明けられた時、悲しい気持ちになりました。悔しい気持ちになりました。

「学校休んだら。」

と言ったこともありました。でも、いとこは「ぜったいに、行く。」

と言って、学校を休んだことはありませんでした。いとこは、不自由なこともあるけれど、それに負けない強い気持ちをもった子だと思っています。私だったら、くじけてしまいかもしれません。

二年生になり、たくましくなりたいとこは、楽しく学校生活を送っています。登下校は自分で歩いて通い、友達とも仲良くしているということです。

いとこは、月に一回ほど仙台に行って、リハビリを受けています。県内には、いとこの症状に対応してくれる施設がないからです。宮古に同じような施設があればいいのと思っています。せめて盛岡にあつたら、いとこや家族はずいぶん助かると思います。

私は将来、医者になりたいと思っています。医者になって、アフリカなどの医療が十分に受けられない地域の子供たちのためにつくしたいと思っています。この夢は、前からもっていた夢ですが、いとこのことも考えると、アフリカのような外国だけでなく、日本にも医療の格差があるような気がします。都会の人も地方に住んでいる人も、命の尊さは同じなので、誰でも同じような治療が受けられるといいと思います。そして、その人や家族に負担がかからないように、「病院に行くのが大変だ」と思わないようなところで治療ができれば素晴らしいと思います。

そして、体が不自由な人も不自由のない人もいっしょにお互いをカバールしあって生活していけたら、みんなもつと仲良く幸せに暮らせると思います。そういう社会になるために、私も力をつくしていきたいと思います。